

1



のこぎり山に 夏がやつてきたー。
キャンプに きた人たちで 山は どこ
も 大にぎわい！

「ヤツホー」

「すばやくぬく、

はずんだ声で語
り始める。

遠くから叫ぶよ
うに大きな声で

演出ノート

2



「そう！ そうなんですよ。」

のこぎり山には、昔から カン助という
てんぐが すんでいて、いまでも 山か
ら 谷へ、谷から 山へと、ビュンビュ
ンと とびまわって いるそうです。

――ぬきながら――

「ひやあー だつだれだー きれいな
山に アキカンを すべてたのはー」

おどろいた様子
で
ブンブンおこつ
た様子で

語りかけるよつ
に

元気よく楽しも
うに

演出ノート



3

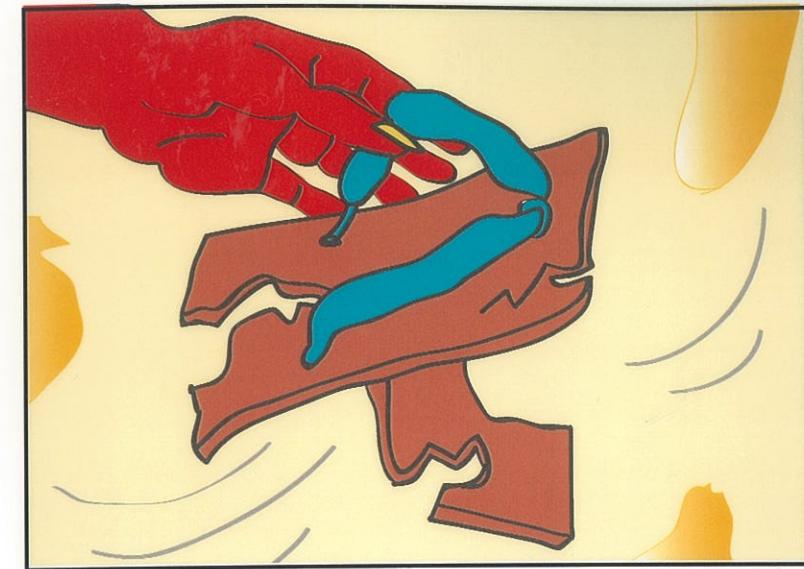
演出ノート

てんぐの カン助は、アキカンを ふん
ずけ、すつてん ころりん！
「あいたたた・・・。ありやあ。こりや
大変。」

こつけいに
大きな声でおど
ろきながら

カン助

4



カン助

「おれの大事な木のげたがこわれちまつたぞー。」

(少しの間)

ひどいことになつたぞ！」

「ゆつくりぬきながら…

「だれもかたづけないから、こんなことになつちまうんだ。」

おこりながら
こまつた様子で
語りかけるよう
に

演出ノート

5



カン助

「いやあー ある、ある、こんなに
たくさん!」

カン助は、ていねいに 一つ一つ ひろ
い 集めた。

——ゆつくりぬきながり——
そして 夜中まで、かかりました。

ゆつくり
ゆつくり
やさしさうに語
る
ゆつくりと大き
な声で熱っぽく

演出ノート

6



てんぐの カン助は、アキカンを、ひとまとめにして ヒヨイと かついで 山を おりて 行きました。

ケンちゃんの 家の 庭に どすーんとおいて のこぎり山へ すたこら 帰つて 行きました。

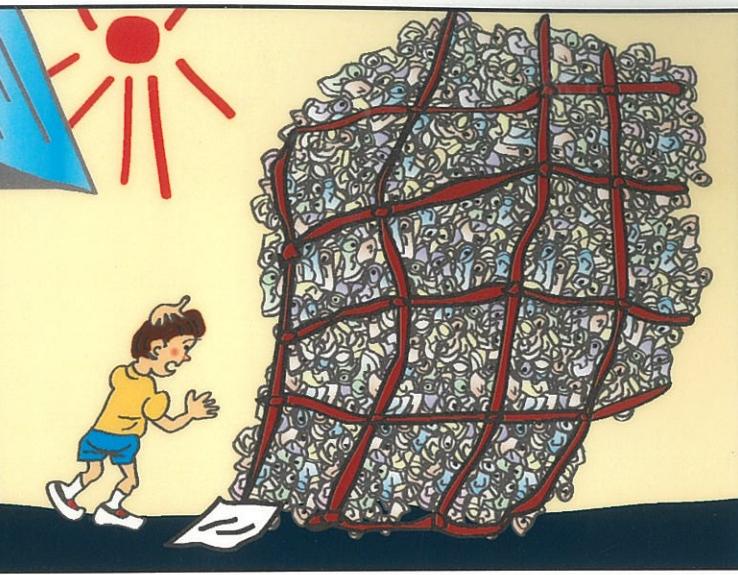
——ぬきながら——

朝がきた！

明るい声で

間をとりながら
自然につぎの場
面にながす。
(どすーんの部
分) 強く

演出ノート



7

ケンちゃん

「ヤヤツー。だれだ！ こんなにたくさん アキカンをおいていったのは？」

ケンちゃんは とつぜんのことびっくりしました。

ケンちゃん

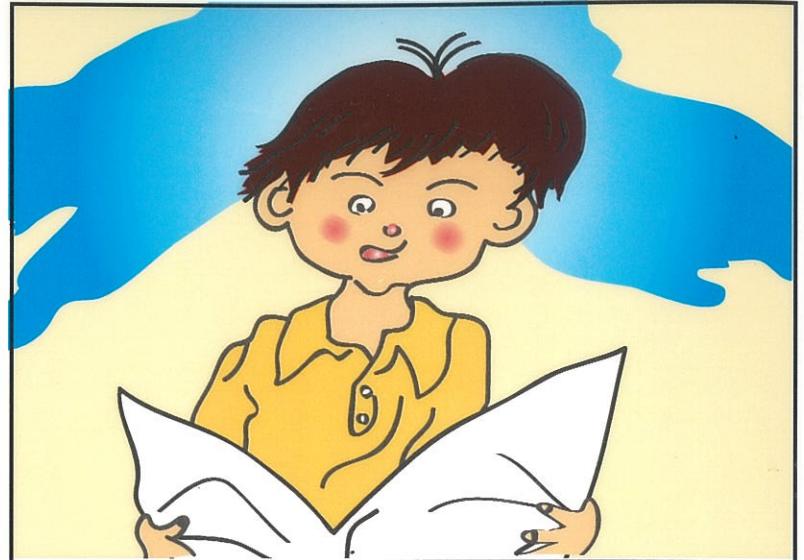
「おやー？ 手紙があるぞー」「ぬきながらー

ケンちゃん

不思議そうに
考えているよう
に

びっくりした声
で力をこめて言
う。

演出ノート



8

演出ノート

(カン助の声で)
子供達に語りか
けるように

ちょっと悲しそ
うに

『ケンちゃんへ！
この アキカンは、のごぎり山に、
すてて あつた ものです。おれは、
アキカンを ふんづけ、大切な 木の
げたが こわれ、もう飛び上がる こ
とが出来ません。こんなことが 一度
と ないよう、アキカンを 山に
すてないで ください。

のごぎり山の カン助より
——ぬきながら——

あわてた様子で

ケンちゃん

「お母さん！ お母さん！」

9



お母さん

ケンちゃん

「どうしたの 朝から大きな声で…。」
「見て 見て！ てんぐのカン助からの
手紙だよ。」

お母さん

ケンちゃん

お母さんは 手紙を 読んで…。
『私たち、みんなのせいで こんなこと
になつてしまつたのねえ。』
「いい考えが あるよ。」

(間)

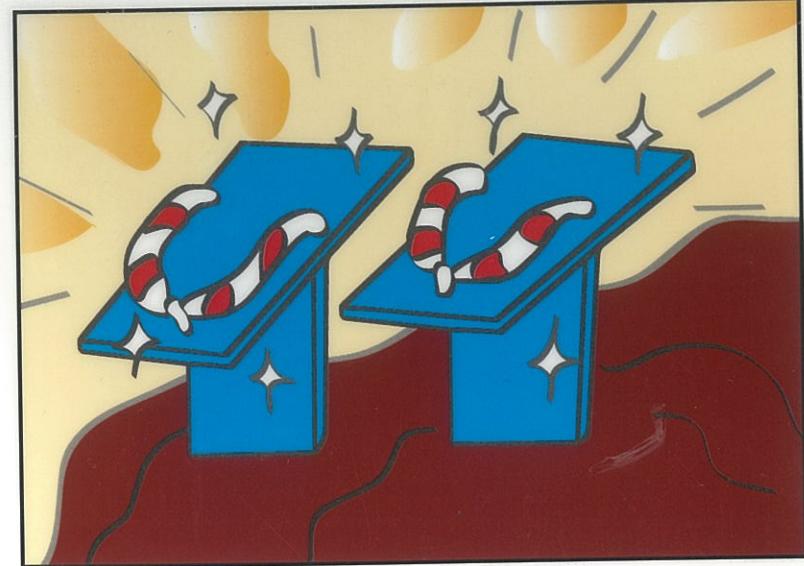
—ぬきながら—

そして のごもり山に 秋がきた。

自然に場面を移し
ながら

びっくりした様子
で 大きくかん高い声
で こまつた様子で
とくいげに

演出ノート



10

演出ノート

カン助

ある日のこと、

「わあーい。ピカピカの ゲタだ！」

大きな声でうれし
そうに

カン助は さつそく はいてみました。
それは 古びた 木の ゲタではなく、
真新しい 鉄のゲタでした。

——さつとぬく——

カン助は、また もとのように 元気に
山から 谷へ 飛びこえて 行きました。

楽しそうに



11

演出ノート

実は、あのゲタは アキカンを とかして つくりなおしたものなのです。 カン助の やさしい 気持ちと ケンち ゃんからの 贈りものの お話しが 人 から人へ つたえられました。

(間)

それいらい のごぎり山に アキカンを する人は いなくなつたとさ!

最後は元気よく

――おしまい――